

第3学年国語科 学習指導案

指導者 西宮 大輔
R 7 研修センター長期研修

1 単元名 課題解決のために会議を開こう（「合意形成のために話し合おう」）

2 単元の目標

- （1）具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
〔知識及び技能〕（2）ア
（2）進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A（1）オ
（3）言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

合意形成のために会議を開き、互いの考えを生かしながら議論をする活動。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A（2）イ

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 （（2）ア）	「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。 （A（1）オ）	積極的に進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたり生成AIや振り返りを活用したりしながら、今までの学習を生かし、学習課題に沿って議論しようとしている。

5 単元について

（1）教材観

本教材は、生活の中から課題を発見し、その解決に向けて話合う活動を行う教材である。生徒がこれまでに取り組んできたスピーチ、プレゼンテーション、グループでの話し合い、討論など、さまざまな活動の集大成となる。卒業に向けて学校に対して学級でできることを互いの考えを生かしながら議論する活動を行うことによって、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする力を育成することができる教材であると考ええる。

（2）生徒観

本学級の生徒に対し、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする力に関する実態調査（令和7年*月*日実施、第3学年*組*名）を行った。話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができていない生徒は*人（誤答*人、無答*人）、目的に即した話し合いをする上で、進行の工夫に言及できていない生徒は*人（誤答*人、無答*人）、進行役になったつもりで参加者の意見を整理することができていない生徒は*人（誤答*人、無答*人）、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができていない生徒は*人（誤答*人、無答*人）であった。この結果から、本学級の生徒は、話し合いを目的に即して効率よく進めるための方法を提案したり、話し合いの進み具合を把握したり、それまでの話し合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えることが十分にできていないことが分かった。これは、互いの考えを生かしながら議論や討論を行う経験が少なく、話し合いの過程を整理したり、発言の関係を捉えながら自分の考えを再構成したりする手立てが十分でなかったことが原因であると考ええる。

（3）指導観

本単元では、まず、学校生活の中から課題を見つけ、クラスで一つ議題を決め、自分事として捉える意識を育てる。次に思考ツール（IPMシート）を使って、議題に対する自分の考えを整理するとともに、対話の練習としてペアで話したり生成AI（Gemini）と対話したり擬似

学級会を行ったりしながら、自身の提案のプラス面（価値・魅力）、マイナス面（課題・懸念点、それらの改善案）を明確にする。ここで「I P Mシート」とは、「P M I」を本単元に合わせて作り直した自作の思考ツールである。その後、3～4人グループで、ブレインストーミングを行い、自由にアイデアを出し合う。出された複数の提案を「話し合いを効果的に進めるための手引き」（以下、「手引き」という。）を活用して思考ツール（座標軸）や「K J法」で整理し、意見の共通点や相違点を踏まえて提案を一つにまとめていく。ここで「手引き」とは、話し合いが円滑に進むように教科書を基に自作した教材である。最後に全体会議を開き、互いの意見を生かしながら、合意形成を図る。なお、グループや全体での話し合いをしているときは、I C T端末による録画と、文書作成ソフト(Microsoft365 Word W e b版)の音声入力機能を使って、議事録を作成する。この議事録を生成A Iを使って分析し、振り返りに生かしていく。

以上のような学習活動を行えば、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする力を育成することができると思う。

6 単元の指導計画（6時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1 検証授業	目標：地域社会や学校生活の中から課題を見つけ、クラスで話し合う課題を決めることができる。 学習課題 私たちの身の回りにある課題を解決するために、どんな議題にするといいのだろうか。 1 単元全体の見通しをもつ。 2 個人で議題について考える。 3 生成A Iを使ってアイデア出しをし、議題の候補を増やす。 4 提案する議題を一つに絞る。 5 グループで話し合い、議題を一つに絞る。 6 全体で議題を決める。 まとめ 「もうすぐ卒業する私たちが学校のためにできること（仮）」（話し合って決まった議題名）について話し合う。 7 Teams上にあるExcelシートに、本時の学習の振り返りを入力する。	○			・この単元では単元全体で話し合いを中心に行っていくこと、配付したルブリック表を基に評価していくこと、生成A Iを補助的に使用することなどの学習全体の見通しを伝え、学習への興味関心を高められるようにする。 ・生成A Iの使用上の注意点を伝え、安全に配慮して使えるようにする。 ・生成A Iの提案と自分の提案を比較し、考えを広げられるようにする。 ・本時の振り返りを入力する際、観点に沿って振り返るように促し、次時の学習に生かせるようにする。 知：ワークシートに具体的に自分の考えを記入している。記入できていない生徒には、生成A Iを使ってアイデア出しをしてもよいことを伝え、議題を提案できるようにする。 【ワークシート、観察】 ○ 態：話し合いに参加して感じたことを振り返ってまとめている。記入できていない生徒には教師から振り返りの視点を示す。 【観察・振り返り】
2	2	学習課題 説得力のある提案にするためには、どんなことに気を付けて意見をまとめるといいのだろうか。 ・議題に対する自分の提案（提案【Idea】価値・魅力【Plus】課題・改善案【Minus】について）をワークシートにまとめる。 ・ワークシートに書いた自分の提案を補足する際に、W e bによる情報収集を使った場合は赤、生成A Iを使った場合は青で記入する。	◎			知：ワークシート（I P Mシート）に自身の提案が筋の通った形になるように、プラス面、マイナス面を具体的に記入している。また、生成A IやW e bによる情報収集を使って、自身の意見を補足している。記入できていない生徒にはW e bによる情報収集や生成A Iを使ってアイデア出しをし、選んだ内容を赤や青で記入してもいいことを伝える。【ワークシート、観察】

	・生成A Iを使って、自分の考えの整合性の確認をしたり、用意したプロンプトを貼り付けて擬似学級会を行い、回答する練習をしたりする。 ・生成A Iを使って擬似学級会を行った際も同様に、自分の考えを補足する際は青で記入する。 まとめ 説得力のある提案にするために、自身の提案のプラス面やマイナス面（と改善策）について意見をまとめる際、Webによる情報収集や生成A Iを使うと考えを補足するのに役立つ。 ・Teams 上にある Excel シートに、本時の学習の振り返りを入力する。	○	思：話し合いに向けて、生成A Iを使って擬似学級会を行い、自分の考えを整理している。使えていない生徒にはプロンプトの入力の仕方を改めて伝え、生成A Iと一緒に取り組むよう促す。 【ワークシート、観察】
3	学習課題 グループで提案をまとめるにあたって、どんなことに気を付けるといいのだろうか。 ・グループになり、進行役、書記、カメラ係といった役割を決める。 ・進行役が中心となってワークシート「話し合いを効果的に進めるための手引き」を確認し、話し合いの進行の見通しをもつ。 ・ブレインストーミングを行いながら、自分の提案を付箋に簡潔にまとめて「座標軸」に貼っていく。 ・「K J法」を使って1つに絞り込む。 ・話し合っている様子は動画で撮影したり、文書作成ソフトの音声入力機能を使って議事録化したりして振り返ることができるようにする。 ・早く終わったグループは生成A Iを使って、まとめた意見に対する課題や反対意見を出すための観点について確認する。 まとめ グループで提案をまとめるにあたって、互いの案を否定しないことや発言しやすい雰囲気に取り組むことに気を付けることが大切。 ・Teams 上にある Excel シートに、本時の学習の振り返りを入力する。	○	・議事録は生成A Iを使って話し合いの要点を確認したり、話し合いの中で合意形成に繋がる発言がどのようなものであったのかを確認したりするように促すことで、振り返りに生かせるようにする。 思：進行の工夫をしたり互いの発言を生かしたりしながら、みんなが納得できる結論に向けて話し合っている。意見が言えない生徒には、グループ内で全員が順番に意見を言う時間を取るなどし、発言の機会を与えることで、発言できるようにする。【観察】 ○ 態：話し合いの進め方を工夫したり、みんなの発言をうまく使ったりしながら、議題に沿った話し合いをしようとしている。【観察】

3	4 5 検証授業	目標：全体会議を開き、合意形成に向けて話し合うことができる。 1 めあて・学習課題を確認する。 学習課題 全体会議で互いの意見を生かして合意形成を目指すには、どんなことを意識するといいいのだろうか。 2 教科書にある二次元コードから読み取った動画を使い、全体会議の目的や役割、進め方を確認する。 3 グループでの話し合いで決まった提案カードを授業支援アプリ(オクリンク)でデジタルホワイトボード上に送る。 4 「手引き」を使って進行係(進行役、書記、タブレット)を中心に話し合いを進める。 5 グループごとに提案内容とプラス面、マイナス面を発表する。 6 観点(継続性、効果)に照らし合わせてカードを「座標軸」に配置する。 7 「KJ法」を使って、提案を分類・整理する。 8 互いの意見を生かして、全体で合意形成を図る。 まとめ 全体会議で互いの意見を生かして合意形成を目指すには、提案内容を比べたり、互いの意見のよいところを組み合わせたりする。 9 Teams上にあるExcelシートに、本時の学習の振り返りを入力する。			・全体の進行役、書記、ICT端末係を事前に決めておく。 ・進行役は「手引き」に沿って話し合いを進められるようにする。 ・書記はホワイトボードに見出しを付けたり、矢印や線で繋いで視覚化したりしてグループとしての合意形成が図りやすいようにする。 ・ICT端末係は授業支援アプリを操作し、カードを分類・整理する。 ・参加者は進行役に協力しながら、合意形成に向けて話し合うことを意識するように伝える。 ・進行が滞った際は、プラス面、マイナス面を視点に置き、まとめることができるか検討するように声掛けする。 ◎ 思：学級全体が納得できる結論を目指し、それぞれの発言を取捨選択したり結び付けたりしながら話し合い、考えを広げたり深めたりしている。 【ワークシート、観察】 ◎ 態：どの発言や進行の工夫が合意形成に向けて効果的であったか、あるいはどうすればより効果的であったかについて振り返り、次の話し合いに生かそうとしている。 【ワークシート、観察】
	6	学習課題 合意形成のために必要なことや改善したほうがよかった点はどんなことだろうか。 ・撮影した動画や、「手引き」と議事録を生成AIに読み込ませて分析した表を使って、グループや全体で、合意形成のために必要なことや改善点を伝え合う。 ・単元テストを行い、達成度を測る。 まとめ 合意形成するために、考える視点を変えて提案したり、合意しやすい一致点を確認したり、異なる意見を組み合わせる新たな提案することが大切。	◎	◎	知：話し合いの話題や展開を捉え、他者の発言と自分の発言を結び付けて自分の考えをまとめることができる。 【単元テスト】 思：合意形成に向かう話し合いの中で、効果的だった発言についての考えが書けている。 【単元テスト】